

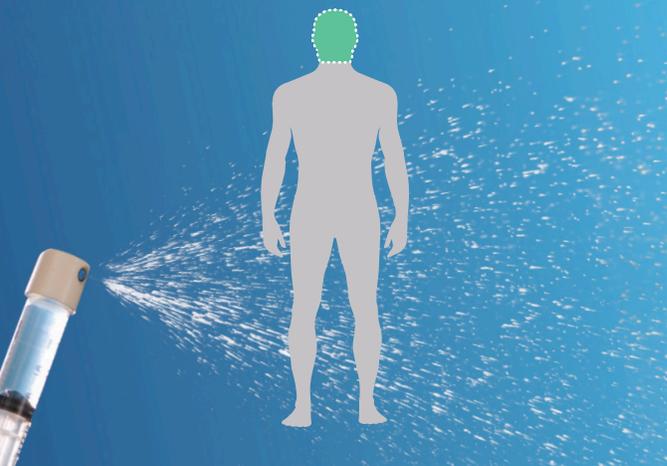
CASE STUDY

Nicole Kopari, MD / Department of Surgery at the University of California San Francisco, Fresno, CA

患者の状態

給湯器の爆発による4.5% TBSAの顔面熱傷を受傷した54歳男性

RECELL 治療部位



結語

本症例レポートでは、従来の治療法(異種移植)で12日が経過しても治癒が進行しなかった症例でもSpray-On Skin Cellsを使用したことにより治癒と色素再生が得られた事が示されている。

RECELLを使用した治療により、術後6日で上皮化が得られ、色素過剰/色素脱失も無く、周辺の皮膚に近い色に色素再生が得られるという結果となった。

RECELL[®]使用による顔面熱傷治療後の色素再生

治療日



治療日



術後6日



術後1か月



治療法

初回デブリードマンの後、創部への治療には異種移植片を使用した。熱傷受傷から12日が経過し、創部デブリードマンを実施し、RECELL[®]システムでSpray-On Skin[™] Cellsを作成した(図A&B)。WBPを実施した母床に細胞懸濁液を直接適用。創部の被覆にはTelfa[™]Clear、その上からXeroform[™]を使用した。

臨床的アウトカム

術後6日で創部上皮化が得られた(図C)。術後1か月目に混合感染により額にダメージが発生した(図D)。しかし、創部では、色素過剰/色素脱失も無く色素再生が得られ、周辺部位と色も馴染んだ。その後のフォローアップ(写真無し)では、色素再生が更に進んだ。医師は、RECELLで治療した部位の柔軟性や強度が周辺の熱傷を受傷しなかった部位と同等である事を指摘した。

本紙に掲載している症例は、臨床成績の一部を紹介したものです。全ての症例で同様の効果を保証するものではありません。

